



ふるさと枕崎のよさを再発見する枕崎市民大学の取組

枕崎市民大学は、平成3年度に開講し、平成17年度までは有識者の講演を聞く一般教養課程と英会話やパソコンなど技能を高める講座の専門課程からなっていました。平成18年度から枕崎の歴史や文化、産業等について6回シリーズで学ぶ現在のスタイルにしました。今年度も25名の受講生で、下表のような講座を実施しました。

回	月/日	講座のタイトル
1回	9/25	枕崎の水は何処から何処へ？上下水道施設見学
2回	10/2	気分は冷凍カツオ！身体の芯から凍る-50℃体験
3回	10/15	ソーラー施設見学と太陽・恒星観測！枕崎天文台
4回	10/30	とっさの時の応急手当！消防署で学ぼう
5回	11/11	カツオはエコ！鯉節工場と化成工場見学
6回	11/27	枕崎の夜を彩る！電照菊の秘密を知る

講座内容は、できるだけ講師を招聘して話を聞く座学だけでなく、現地に赴いて見学したり実際に体験したりするように工夫しています。受講生からは、「個人で入ることができない所まで入れて、枕崎のことをより深く知ることができる。」などの感想をいただき、好評を得ています。今年、-50℃で鯉を冷凍保存している漁協の倉庫（写真上）に実際に入り、-50℃を体感していただきました。また、枕崎空港跡地に建設された枕崎天文台で太陽・恒星観測（写真中）をさせてもらったり、立神地区に集中している電照菊ハウス群内に入り、菊の花を実際に切らせていただいたりする活動もありました。（写真下）

閉講式では、6回の写真をスライドショーで鑑賞し、皆勤賞授与式を行いました。さらに、それぞれの講義後に受講生が書いたレポートを卒業文集としてまとめ、写真のスライドショーDVDとともに受講記念として配布しています。



【-50℃の冷凍庫内】



【天体望遠鏡で太陽観測】



【電照菊のハウス内】

郷土に伝わる昔話を後世に伝える枕崎市立図書館の取組



郷土に伝わる昔話や民話は枕崎市誌・枕崎の郷土資料集などで知ることができますが、その中でも「わがふるさと枕崎—郷土教育資料集2—」は児童生徒用に分かりやすくまとめられています。この貴重な資料を多くの児童生徒に読んでほしいと願っています。

枕崎市では読み聞かせボランティアグループの協力により、郷土の伝説等を手作り紙芝居にし、お話会などイベントの際に活用しています。手作り紙芝居は子どもだけではなく、高齢者施設等でも喜ばれています。

また、「NPO 法人枕崎みしのたくかにと」は、起業支援型地域雇用創造事業を活用し郷土の伝説等を題材に4冊の絵本を作成しました。文字だけで読む郷土のお話よりも、絵が入ることで親しみやすく興味関心を持てるのではないかと思います。図書館ではこのような活動を資料提供の面でサポートしていくとともに、地域の専門的知識を有する方々の協力もいただきながら、今後も資料の収集に努めてまいります。

さらに、子どもたちが郷土の歴史について学ぶ機会を提供するのも図書館の役目だと考えます。明治・大正・昭和・平成を生き抜いたお年寄りたちから、地域のことを方言で直接聞くことは子どもたちにとっても貴重な体験になると思います。



指宿市の取組

子育てサロン「スマイルひろば」

指宿市では、平成21年度から親子で気軽に集える子育てサロン「スマイルひろば」を開設しています。サロンを運営して下さるのは、市が養成した子育てサポーターの皆さんです。現在91名のサポーターが登録されており、それぞれがご自身の子育て経験やできることを生かして、ボランティアで取り組んでくださっています。

平成26年度は、事業回数を従来の月1回から3回に、場所を2箇所にも拡充し次の、3つの取組を行っています。

1つ目は、従来実施してきたスマイルひろばです。指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」を会場に、しゃべり場や創作活動、絵本の読み聞かせ、ヨガなど、季節に応じたプログラムをサポーターが企画して実施しています。毎回10～20組の親子に参加していただいています。

2つ目は、同会場において外部講師を招いたリトミックです。リトミックとは、音楽を使った教育法で、親子で音楽に合わせて身体を動かし、子どもの音に反応する力やリズム感、集中力などを養う効果があります。大人も子どもも笑顔で楽しめる内容となっており、元気になれると好評です。

3つ目は、山川・開聞地域の方を主な対象者とした、徳光・利永校区公民館でのスマイルひろばです。こちらは、子育てサポーターへの子育て相談や、保護者同士の交流を兼ねた「しゃべり場」を中心に、ヨガや絵本の読み聞かせなど行っています。参加者は少人数ながらも、リラックスして参加できるアットホームな子育てサロンとなっています。

まだ始まったばかりではありますが、これらの活動を行うことによって子育て中の保護者が気軽に集い、相談できる人と場を増やし、地域全体で子育てを支える環境の実現につなげたいと考えています。



いぶすきシルバー美術展

指宿市文化協会が主催する「いぶすきシルバー美術展」は、60歳以上の方なら誰でも応募資格を持つユニークな絵画の公募展です。今年度で25回展を迎えました。県内各地の60歳以上の美術愛好家131名が170点に及ぶ油絵、水彩画、水墨画、ちぎり絵など力のこもった作品を出品しました。

出品された作品は、8月3日から15日間、指宿市考古博物館「時遊館COCCOはしむれ」に展示され、地元の小中学生や出品者の家族など延べ1,703名が来場しました。出品者のうち、最高齢者は91歳で、年齢による衰えを感じさせない作品を出品されました。来場者からは、『力強い迫力ある作品もあり、60歳以上の方のパワーが伝わって来た』『将来、このような作品を描いてみたい』などの声があり、観る人を楽しませていました。

指宿市文化協会では、この美術展をきっかけに、高齢者の生涯学習社会への進出を促し、生きがいくくりや趣味・創作活動への意欲高揚のため、これからも多くの作品が出品されることを期待しています。

平成27年度のシルバー美術展は、「第30回国民文化祭かごしま2015」の指宿市主催イベントとして、日本全国の60歳以上の方の絵画作品を公募・展示します。60歳以上の皆さんが生み出す感性豊かな作品の数々をぜひ指宿で、お楽しみください。

期日：平成27年10月31日（土）～11月8日（日）

会場：ふれあいプラザなのはな館体育館





南さつま市の取組

本との出会いを図書館で



南さつま市立の各図書館に、本の展示コーナーがあるのはご存知でしょうか。季節の行事にちなんだ読み物や映画化された小説、様々な文学賞受賞作品など、来館された方々の好奇心や興味をそそる本を集めて展示しています。テーマによっては、図書館スタッフのおすすめポイントや内容に関する紹介を掲示することもあります。棚にあるときは見逃していた本も、凝ったデザインの表紙やコメントにひかれて手に取ってご覧になる方も多く、新たな本との出会いが生まれる一角になっています。

また、4つの分館では「新刊本フェア」を順次開催しています。これは、他館で3～5か月前に購入した本を取り寄せて展示するもので、通常の貸出と予約が可能です。本を所蔵している館に出向かなくても話題の新作をじかに選べるということで、大変ご好評いただいている企画です。

金峰きらり塾

「金峰きらり塾」は、毎月第3土曜日の「青少年健全育成の日」の開催を基本に、地域のつながりや伝承・伝統文化に触れる交流体験や社会体験、ボランティア体験などを経験できる青少年講座として実施しています。郷土に誇りと愛着を持つ心豊かでたくましい青少年の育成を図るとともに、地域社会の教育力の向上を目指すことを目的に開催しています。

平成26年度は、6回開催し、6月に金峰文化センターで「ニュースポーツ体験」、7月に坊津B&G海洋センターで「カヌー・ローボート体験」、9月は道の駅きんぼう木花館で「そば打ち体験」、10月には「金峰山登山」、11月には「歴史交流館金峰での体験学習」、最後に1月に史跡めぐりと閉塾式を行い、一回り大きくなった子どもたちは笑顔にあふれていました。



【ニュースポーツ体験】



【カヌー・ローボート体験】



【そば打ち体験】



【金峰山登山】



【歴史交流館金峰での体験学習】



南九州市の取組

地域による学校支援活動

清水地域子ども教室（川辺地域）は、「地域の子どもを地域らしい活動を通して 地域の人で育てる」をモットーに、平成25年度は、平日155回、土曜日8回の子ども教室を実施し、参加者は延べ1,232人でした。

特に土曜日の活動は、地域の関係機関や団体が協力し、活動の支援を分担して行うことで、地域ぐるみで青少年育成活動が実施され、地域住民の中に「地域の子どもは地域で育てる」という考えが定着しています。地域の良さを生かした活動となるよう、「田植え」「ドングリの森清掃」「ミニ門松づくり」を、地域の方を指導者として招聘し、子どもたちが地域をより身近に感じられるようにしています。また、公民館活動との連携により地域全体での地域子ども教室となっていることが認められ、平成26年度優れた「地域による学校支援活動」文部科学大臣表彰を受賞しました。



＜心をこめて田植えを実施＞

地域関係団体、学校と連携した読書推進

南九州市図書館では、3館それぞれに読書推進に向けた取組を関係団体、学校等と連携して行い成果を上げています。それぞれの館の取組を紹介します。

＜穎娃図書館 読書まつり＞



穎娃図書館管内には小学校を中心に、親子読書グループが結成され、活動を精力的に行っています。11月8日には、そのグループに出演を依頼し「読書まつり」を開催しました。子どもたちも一緒に出演する団体もあり、日頃の活動が定着していることが分かりました。保護者だけでなく子どもも一緒に進めることで、読書の楽しさや素晴らしさをより伝えられ、読書推進が図られることとなります。読書まつりには、祖父母と一緒に参加している子どももおり、世代間の交流にも一役かっています。

＜知覧図書館 クリスマスおはなし会＞



知覧図書館では、クリスマスを前にお話会を実施しています。市内から多くの親子が参加し楽しく読書活動を体験しています。

当日は、図書館を中心に結成されている「おはなしゆめさと隊」や「ゆずり葉親子読書会」による、人形劇、効果音の工夫もされた「ぼぼくのおんがくかい」等が上演されました。また、今年は南九州市連合青年団のみなさんをお願いして、バルーンアートにも挑戦しました。参加した子どもたちはとても喜んでいました。関係団体の人材活用が、読書推進に大きな役割を果たしています。

＜川辺図書室 親子読書会＞

川辺図書室では、親子読書会員を募集して年間10回程度色々な取組を行っています。今年度は高校生ボランティアの応募が40名以上あり、開催日ごとに楽しく協力してくれています。11月の取組は、近くの高齢者施設を訪問しての親子読書でした。高校生が参加者や高齢者の方々に、読み聞かせ等を懸命に行ってくれました。聞く方も話の中に引きこまれて、楽しく夢のあるひと時を共有できました。高校生の協力により、さらに充実した読書推進になっています。

